る。興が湧けば絵を描くが気が向かなければ絶対に描きはしない。幼児の絵が上手下手に係らず生きているのは情緒が表現されるからである。

幼児を動かすものは情緒である。従って幼児を動かすためにはその情緒を動かさなければならない。幼児に何かさせたいと思うならば幼児が自らそれをしたとなるように仕向けなければならない。幼児がそれをしたくなるかどうかは幼児のレディネスによって規定されるから、教育に当っては問題の程度と適当な時期を誤らないことが大切である。

適期を待つことは自発性の尊重についても特に重視しなければならない。指導の害は自発性を無視してその芽生えをつみ、適期を待たずに無駄骨を折らせ、とどのつまりは反抗児やただおとなしい子又は教えられたことだけ覚えている子及び劣等感に圧倒された無能な子を作る処に極まる。

幼児を動かす力は情緒にあるのだから、幼児の教育は此の情緒の操作によるべきである。従ってその方法は誘導につきると云ってよい。仮に進学の準備教育をするとしても誘導の可能な範囲内に止めるべきである。勿論放任されていても所期の準備教育の内容程度のことはやってのける幼児もあろうが、親が希望するからと云って気のない幼児に課業として指導するならば個人の発達の大切な土台を作る可き時に発達の法則に逆って誤った生活を強いるのであるから将来取り返しのつかない人格性毀損の訴を犯すことになるだろう。

幼児に対する教育的意図は幼児が生活の間に自発的な遊びとして経験するように誘導さるべきであり、真に幼児の幸福を祈り円満な発達を願うならば彼等に課業を用意するのでなく豊かな遊びの世界を造ってやるべきである。

幼稚園は第一に幼児の花園としての使命を持つものであり、決して保護者の個人的名誉心のために存するものではない。このわかりきったことをわれわれは忘れてはならない。

幼稚園児の生活実態についての一調査（第一報告）

愛育研究所　竹田俊雄

目的　この調査は幼稚園児の夏期休暇中の生活を明らかにしようとするもので、もろもろの生活習慣等がどのような形態をなしているかを研究する。

方法　東京都内山手の某幼稚園児（五才児および四才児）を対象

とし、夏季休暇中その母親にこどもの生活に関する詳細な日記を書かせる一部として、質問紙法的な様式を用いて、次のような項目について、六二日間連続観察させた。

調査項目

1 健康状態＝
2 きげん＝
3 睡眠 (イ)起床 時 分
(ロ)就寝 時 分
(ハ)午睡 時 分から 時 分まで
4 食事 (イ)朝食 時 分
(ロ)昼食 時 分
(ハ)夕食 時 分
(ニ)間食に食べたもの＝
(ホ)食欲＝
(ヘ)嫌って食べなかったもの＝
5 排泄 (イ)排便の異常＝
(ロ)おもらし（ ）
(ハ)おねしょ（ ）
6 衣服のぬぎ着 ひとり（ ）
7 清潔 (イ)朝いわれずに顔を洗う（ ）
(ロ)歯をみがく（ ）
(ハ)うがいをする（ ）
(ニ)食事の前に手を洗う（ ）
(ホ)ねまきに着かえて寝る（ ）
8 おかたづけ＝
9 お手つだい＝
10 ごあいさつ (イ)起きた時（ ）
(ロ)寝る時（ ）
(ハ)食事のはじめ（ ）
(ニ)食事の終り（ ）
(ホ)出かける時（ ）
(ヘ)帰宅した時（ ）
(ト)人にあった時（ ）
(チ)人と別れる時（ ）

実施 調査の実施は昭和二十八年七月十一日より九月十日まで、計六二日間である。

この報告 ここに報告するものは、五才児五七名の分で、これらの調査項目のうち、睡眠に関するもの、衣服のぬぎ着の自立、清潔の習慣、おかたづけおよびお手つだいに関するものである。

睡眠時間

睡眠時間については、個々のこどもの前夜の就寝時刻から、その日の起床時刻までの時間を算出し、その経過および平均睡眠時間を調べた。

調査児童五七名の平均睡眠時間は一〇時間二〇分（S・D・一六分）となっている。

次に午睡については、五七名中、九名は午睡を一日も行わず、四八名（八四・二％）は調査日数六二日中一日ないし三七日これを行っている。すなわち、

○日　九名（一五・八％）
一日――五日　一九名（三三・三％）
六日――一〇日　九名（一五・八％）
一一日――一五日　七名（一二・三％）
一六日――二〇日　八名（一四・〇％）
二一日――三〇日　一名（一・八％）
三一日――四〇日　四名（七・〇％）

そして午睡した場合の平均午睡時間は一時間一一分となっている。

衣服のぬぎ着

衣服のぬぎ着の自立については、調査児童五七名、調査日数六二日について、回答率は九〇・四九％であり、その〇・九〇％が（S・D・〇・一四％）がこれを行っている。

清潔の習慣

清潔の習慣の自立については、

顔を洗う（回答率　九二・五九）
平均　〇・九一（S・D・〇・〇九）
歯をみがく（回答率　九二・九三）
平均　〇・九四（S・D・〇・〇八）
うがいをする（回答率　九〇・五五）
平均　〇・九〇（S・D・〇・一四）
食事の前に手を洗う（回答率　九二・八七）
平均　〇・九六（S・D・〇・〇五）
ねまきに着かえて寝る（回答率　九一・五一）
平均　〇・九八（S・D・〇・〇二）

となっていて、いずれもかなり高いパーセンテージを示している。個人差もまた少い。

おかたづけおよびお手つだい

おかたづけおよびお手つだいについては、

おかたづけ（回答率　六四・六一）
平均　〇・八三（S・D・〇・一六）
お手つだい（回答率　五八・七四）
平均　〇・七三（S・D・〇・二二）

となっていて、これらの回答率はいずれも低いが、無答は結局、マイナスの場合が事実において多いと考えられる。それを別にしたプラスの場合も、他の項目と比較して非常に少なく、個人差もかなりいちじるしい。